

平成26年度 第1回射水市行財政改革推進会議での第3次射水市行財政
改革大綱(素案)に対する意見について

No.	意見	意見反映	内容	意見・反映箇所 (新旧対照表)
1	普通交付税の一本算定によって14億円不足するということについて、市民に対して我慢することを強いる交換条件となっているように思える。	修正しない。	「本市を取り巻く環境」として客観的に捉えた状況を記載したものであるため修正しない。	P 3
2	「14億円が不足する」ということだけが独り歩きしないよう注意すべき。	追加記載する。	一本算定額による影響額については、変動する可能性があることの記載を追加する。	P 3
3	これまでの行財政改革において行ってきたことを踏まえ、更に取り組まなければならない必要性を盛り込む文章があったほうが良い。	追加記載する。	「第3次行財政改革大綱の策定」の中で、これまでの行財政改革の取組と継続した取組の必要性についての記載を追加する。	P 5
4	「公民の役割分担」、「公の守備範囲の峻別」について強調する文章を追加してはどうか。	追加記載する	「目指すべき方向性」の中で、行政と市民等が共通認識を持って取り組むことについて記載を追加する。	P 7
5	取組項目として、「自主財源の確保及び創出」があるが、本文中にその記載がないので、記載すべき。	追加記載する。	「目指すべき方向性」の中で、自主財源の確保及び受益と負担の適正化について記載を追加する。	P 7
6	「スピード感あふれる」や「時代に即応した」というように迅速さを強調したほうが良いのではないか。	追加記載する。	「目指すべき方向性」の中で、喫緊の課題に迅速に取り組むことについて記載を追加する。	P 7
7	『量』の改革と『質』の改革については、言葉としては良いが、意味が分かりにくい。	修正する。	「目指すべき方向性」において理解しやすいよう記載を修正する。	P 7

No.	意見	意見反映	内容	意見・反映箇所 (新旧対照表)
8	<p>新地方公会計について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容が分かりにくい。 ・市民に対しては、取組項目として、「新地方公会計の推進に基づく『透明性の確保』、『効率性の追求』、『企業感覚による行政の推進』」等が理解しやすいのではないか。 	修正する。	<p>「行財政改革の基本方針」の「経営的な視点に立った行財政運営の中で、新地方公会計を導入することによる効果について記載を修正する。</p>	P 8
9	<p>民間活力の更なる活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「民間が得意なことは民間に任せる」ことが大切で、何でも民間委託等に頼ることがないように区分して考えるべき。 	変更しない。	<p>最適なサービス提供主体を考える基本原則において、民間の持つノウハウ、得意分野を活用するということを踏まえているため原案のままとする。</p>	P 8
10	<p>職員数の見直しにより、正規職員から非正規職員に振替が行われているが、臨時・非常勤職員の活用について盛り込めばどうか。</p>	変更しない。	<p>再任用制度をはじめ臨時・非常勤職員を含む多様な雇用形態の活用方法については、効率的な組織体制の構築の中に含んでいるため変更しない。</p> <p>具体的な方策については、定員適正化計画に盛り込むこととする。</p>	P 9